

# 樂友会通信

NO62

2015/8 指笛樂友会発行

この夏は、高温注意報が各地に出され、熱中症による緊急搬送者が多数発生しています。連日の猛暑日に「もう～しようがないか！」と諦めぎみになります。会員の皆様にはお元気にお過ごしでしょうか。

さて、今年の発表会は「指笛音楽81周年記念発表会」となります。

大イベントに先駆けて参加した4つの活動と「指笛の日」の活動についてお知らせします。

## ① 練馬区立中村敬老館 訪問演奏

4月23日に楽友会会員4名(斎藤秀元、中村倫二、片山陽一、有賀 猛)がボランティア演奏を60分間程の中で行いました、オープニングに「上を向いて歩こう」を全員演奏で行い、次に1人ずつ個人演奏を行い、指笛の吹き方を説明した後に全員演奏を通所者の人たちの歌と一緒に合奏しました、エンディングは「故郷」を全員合奏しました。



中村敬老館娯楽室にて撮影

## ②指笛の日:練馬光が丘公園で野外指笛演奏

5月25日は田村大三先生が昭和9年に神田神保町のすずらん通りで指笛の路上ライブをやり始めた日です、楽友会ではこの日を「指笛の日」と定めています。

この日を記念して光が丘公園で指笛合奏をしました。



指笛の日(5月25日)練馬光が丘公園で指笛合奏

## ③NPO法人健生会主催「第5回みんなのおんがくかい」で指笛音楽演奏

6月25日に練馬区生涯学習センターホール(旧公民館)にて行われた NPO 法人健生会主催「第5回みんなのおんがくかい」で楽友会会員の8名(有賀猛、中澤忍、植松久美子、斎藤秀元、奥津恭子、片山陽一、中村倫二、河津菊枝)が順に個人演奏して、最後に「故郷」二重奏を合奏しました。

この演奏会場で初めて、女性、男性共にドレスアップした揃いの制服姿で演奏しました。

恰好だけは華やかになったように思います。



ドレスアップした制服姿の出演者

#### ④東京慈善銀行友の会主催のチャリティーショーに参加

例年行われている東京慈善銀行友の会主催の新宿西口三井ビルのゴーゴー広場でのチャリティーショーは7月12日に開催されました。

梅雨の晴れ間の中、歌に踊りにマジックに盛り沢山のパフォーマンスが行われました。

今年も東京リサーチ合奏団の演奏が会場を華やかにしてくれました。

我々の出番では、静海先生が始めに「浜辺の歌」を独唱され、次いで中村倫二さんの指笛と一緒に「エーデルワイス」を歌われました。3曲目は中村さんが「アイダ大行進曲」を合奏団と一緒に演奏し、最後に中村さんに(斎藤秀元、坂田泰行、有賀猛、藤好真也、藤好清晴、有吉潤子、有吉憲行)の当会メンバーが加わり「上を向いて歩こう」を合奏しました。

東京リサーチ合奏団との指笛合奏の写真です。



中村倫二さんと田村静海先生の合奏シーン



門下生8人による合奏シーン

## ⑤ 第13 回音楽交流フェスタに参加

「障害の有無にかかわらず、また、団体の枠にとらわれず、音楽が好きな仲間があつまって、一緒に音楽を楽しもう！」という趣旨で行われた「社会福祉法人あかねの会」主催のイベントに参加しました、全体では6団体の参加がありました。

「指笛楽友会」は「上を向いて歩こう」を合奏し、「斎藤秀元、有賀猛、奥津恭子、片山陽一、中村倫二」の順にソロ、デュエット演奏をして音楽交流をしました。



フィナーレで「紅葉」を演奏する5人の当会メンバー

ボランティア活動のこと、あれこれ

竹中 速雄

週末を利用して、介護施設などを訪問することがもう7年以上続いている。この間、多くの方々との出会いがあったり、驚きがあったりする。今回はその一端をご紹介します。

### その1 思わぬところで、光が丘公園

7月18日（土）、佐倉市島田台にある「ガーデンカルミア」を訪問。いつものようにパンフルートを演奏し、指笛を演奏した。その後は、用意していたハーモニカを伴奏して、入居者の方々に歌を楽しんでもらった。

この施設は1年ぶりの訪問。施設長が替わったり、ボランティア担当者が替わったりで、連絡が十分できなかったためちょっと疎遠になっていたもの。というわけで、当然入居者

の顔ぶれも少し変わったようだ。

さて、最後の曲、「しあわせなら手を叩こう」を歌い終えて、皆さんは、「ありがとう」とか、「また来てくださいね」とか口々に言いながら退席。そんな中で、ある女性が施設長さんに何やらお話しをしている。施設長さんが来て曰く、「竹中さん、こちらの方は、以前指笛を聴いたことがあるそうですよ。もしかしたら、竹中さんが吹いていたかもしれないですね。」とのこと。私は驚いて、「えっどこでお聴きになったんですか」と質問。女性曰く「練馬区の光が丘公園です」。

これにはびっくり。指笛楽友会の方々が光が丘公園で演奏したときのことではないか。私は改めてこの女性に、指笛楽友会のことを説明。

「私の所属している指笛楽友会の、斎藤会長や会のメンバーが集まって、光が丘公園で演奏したのですよ」と鼻高々に話した。指笛を通じて親密さが一気に増した。

この施設、指笛演奏を待っている人がいると思うと、もっと頻繁に訪問しなくては！

斎藤会長をはじめ、光が丘公園で演奏された方々、「ガーデンカルミア」でも演奏しませんか？

## その2 90歳のケーシー高峰

同じく佐倉市の清明会「はなみずき」でのお話し。今年3月のこと。

ここでは年に1回、この施設を訪問するボランティアの方々を招いて、職員を含め相互に交流する催しがある。総勢30人。日本舞踊、フラダンス、南京玉すだれ、手品、ピアノ、腹話術、三味線など多彩な方々が集まる。

佐倉市内には「ちとせ」という施設もあり、ここで私は、年に4回程度演奏活動をしている。入居者である90歳の女性がよく楽器について質問するので、親しく話すようになった。頭は真っ白だが、きちんと整え、歩く姿勢は端正そのもの。三味線をやっているという。

さて当日。顔なじみの方々と挨拶を交わすうちに、この90歳の女性を発見。「えっ、ちとせから来られたんですか」と私。「そうです。今日は、私はボランティア活動なんです」とすまし顔。なにをやるんだらうと興味津津。

プログラムは進み、この女性の出番が来た。

白衣を着、聴診器を首につけ、白板を背にして、女性版ケーシー高峰の登場に会場が湧く。

張のある大きな声で自己紹介。

その後のこと。

「皆さん、胸は息をするところだからとっても大事」

「あっ、そこの奥様、ちょっと聴診器で診てあげましょう。ええ、ええ、洋服のままで、そのままですよ」

・・・・・聴診器をあてる・・・・皆さん静かに見守る・・・・

「奥様、これはいけません。山の谷間が雪崩を起して崩れています。早く手当をしなくては！！」

固唾を飲んで見ていた観客は大爆笑。

こんな調子で90歳のケーシー高峰さん、健康について語った。長生きしている経験者が語るので説得力は抜群。笑いと涙をこらえながらも妙に納得してしまう。

90歳でこんな元気な人もいるんだ。

次回の「ちとせ」訪問時はこの方に弟子入りしよう。

(平成27年7月記)